

飛 翔

広島市立安佐中学校 生活だより

平成24年11月 2日 No 42



〔11月の月間目標〕



「心を伝えよう」

～学級・学年の“絆”を深めよう～

11月の「月間目標」は、上に書いたように『心を伝えよう
～学級・学年の“絆”を深めよう～』です。

来週（6日）に、予定されている「心を伝える」を連想させる「目標」ですが、この「取り組み」を通して「学級」の“絆”をより「深く」より「強い」ものにしていってほしいと思います。

もちろん、この目標の意味は、6日（火）の「心を伝える」だけに、限っているわけではありません。4月、入学・進級して、新しい「仲間」と出会ってから7ヶ月余り、「学級」の中で、いろいろなことがあったことでしょう。

そして、その中には「気の合う人」もいれば、「苦手な人」もいるかもしれません。私たちは、今まで、そして、これからも、さまざまな人と「出会い」、その中で生きていくのです。



人と人とのかかわりの中で「自分」を分かってもらうこと、自分の気持ち＝「心」を伝えること、また、相手の気持ちを＝「心」を分かろうとすること、それが、お互いに理解し合うために、大切なことだと思います。

その方法は、「言葉」で、「態度」で、「手紙」で、ときには「歌」であるかもしれません。さあ、自分の「心」を伝えましょう。相手の「心」を受けとめましょう。相手の「心」を理解し、その立場になって考え、行動すること、これすなわち「思いやり」です。

さあ！「心を伝えましょう！」そして「心を受けとめましょう！」

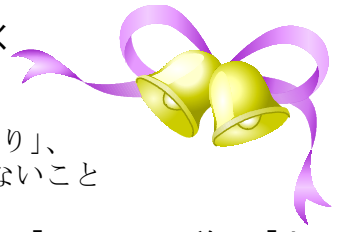
「心を伝える」に向けて

「発表」以外の大切なもの

「心を伝える」の目的は「心」を「伝える」だけではなく「心」を「受けとる」ことにもあると考えます。

どの学年、どのクラスも、本番に向けて、「一生懸命」の努力をしています。そんな他の学級の発表に対し、「笑ったり」、「ざわついたり」などという行為は、絶対にあってはいけないことだと思います。

これは、一生懸命がんばっている「仲間」を大切に「マナー」以前の「人」として大事なことだと思います。



がんばっている「仲間」の「心」をしっかり受けとりましょう

「心を伝える」を目前にして

来週11月6日(火)



「心を伝える」の本番が、いよいよ来週（6日）に迫りました。今日まで「合唱」に関して、さまざまなアドバイスを担任の先生や音楽科の先生からもらって、各学級ともがんばって練習に取り組んできたことと思います。

ここで、あらためて言うまでもないのですが、「合唱」には、「技術」が必要であり、同時に「気持ち」もまた、必要であるということです。例えば、どんなに「歌」に、気持ちを込めようとしても、音程もとれず、リズムもデタラメでは、聴いている人に「心」が届くでしょうか？そんな歌では、「歌詞」の意味を味わう前に、不快になってしまうかもしれません。せっかくの美しい「メロディー」も、素晴らしい「歌詞」も、聴く人の胸を打つことはできないでしょう。

では、「音程」も完璧（かんぺき）にとれ、「発声」も申し分なく、技術的にはパーフェクトであったとしても、その歌に「気持ち」が入っていないとしたら、どうでしょう？その歌は、聴く人の心に「感動」を与えるのでしょうか？

答えは「NO」です。 あくまで「NO」です。

気持ちの入っていない、心のこもっていない歌に、人を感動させる「力」があるわけがありません。ましてや、歌っている自分自身が「感動」できるわけがありません。

あなたが、あなたの学級のみんなが、「心を伝える」の当日までがんばり続けた、その「気持ち」が、その歌にかけた「気持ち」が、あなたの学級の「歌」にのりうつるのです。そして、本当の意味で、そのときに、はじめて「あなたの学級の歌」になるのです。そして、そうなったときに、はじめて、その歌が人の心をつくのです。

**だから…今日まで練習を積み重ねてきたのです
技術を磨き、歌に気持ちをこめるために**

